

大垣市金生山化石館

化石館だより



コラム

故熊野敏夫先生を偲んで

金生山化石館は、昭和39年3月21日に開館しました。今年は開館50周年という記念の年を迎えています。金生山化石館は、赤坂町の教育や行政、また金生山の地質と化石研究に尽力された、故熊野敏夫先生の功績を称え、先生の化石研究に対する思いと採集された化石を後世に伝えるために、赤坂町、赤坂町商工会、熊野敏夫先生顕彰会が町の補助金と町民の寄付金によって建設したものです。また、旧館の西側には先生の銅像も建てられました。現在の化石館は、昭和60年に市の補助を得て赤坂商工会が建設し、平成8年に市へ寄贈・移管されたものです。



旧化石館（左側の産業館内に開設されました）



熊野敏夫先生は明治6年（1873）に岐阜県武儀郡洞戸村に生まれ、岐阜県尋常師範学校を卒業後、岐阜市高等小学校訓導として教職のスタートを切られましたが、翌年には師範学校の訓導となり、続いて恵那郡巖邑尋常高等小学校訓導兼校長、武儀郡古金田尋常高等小学校訓導兼校長を経て、同34年赤坂小学校の校長に招かれています。その後先生は22年間の長きに亘って赤坂小学校の校長職を務められました。また、退職後には赤坂町の助役、書記、町長を務められ、赤坂町を第二の故郷として80余年の生涯を終えられています。

熊野敏夫先生は、ライフワークとして金生山の化石研究や地質研究に取り組みました。毎日のように金生山に足を運び、山中や採石場から膨大な化石を採集し分類整理されたようです。これらの化石は、不破郡内や西濃地域の30校に理科教材として寄贈されています。また、東京帝室博物館へ24種76個の化石標本を寄贈したほか、全国各大学、高等学校へも博物標本として『金生山産大理石および化石各種』を寄贈しておられます。さらに、化石研究や採集に金生山を訪れる研究者には、自ら山中を案内するなどの支援をされました。このような学者には、脇水鉄五郎博士をはじめ、鹿間時夫博士（横浜大

学)、永井瑋一郎博士(東京大学)、遠藤隆次博士(埼玉大学)、秋田丕博士(札幌大学)等多数の名前が知られています。早坂一郎博士は、脇水鉄五郎博士から提供された化石を基に、金生山の巻貝や二枚貝の化石を多数記載しておられ、論文に謝意を表しておられますが、これらの化石の採集にも熊野敏夫先生の尽力があったものと思われま



熊野先生は、赤坂町史の「赤坂町の地質と石灰岩」をはじめ、「美濃国金生山案内」「赤坂町案内」「金生山の化石」などの著書を執筆されており、講演の依頼も多くその数300回とも伝えられています。こうした功績を称え、昭和33年には、岐阜タイムス社から「文化賞」が授与されています。

熊野先生は傘松からの眺望をととても好んでおられ、吉野の一目千本という場所に例えて「美濃の春 手に取るようぞ 金生山」の句を残されています。「美濃国金生山案内」には、「春はもちろん、秋の眺望もこれに劣らず、夏の月、冬の雪もまた趣がある」と絶賛されています。在りし日には、傘松に来客を招待し、採集した化石や鉱物を見せながら金生山について楽しそうに語られていたそうです。



お知らせ



開館50周年記念特別企画展 故熊野敏夫先生の愛した化石たち

熊野敏夫先生の生い立ちや業績を紹介し、ゆかりの化石や鉱物、その他の品を展示して、在りし日の姿を偲びます。また、金生山化石館の50年の歩みについても紹介します。企画展に合わせて、この後も記念誌の刊行や講演会の開催(2月)など、関連事業も計画されています。

開催期間：平成26年10月11日(土)～平成27年1月31日(土)

場 所：金生山化石館 2階展示室

休 館 日：火曜日(祝日の翌日 年末年始：12/29～1/3)

問い合わせ：大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp